

栗判官

2378  
101



一

栗判官伊呂吉由縁藤澤 全六冊

栗判官伊呂吉由縁藤澤 全六冊  
友庄司住家一段と綴り根本は故人山下  
照天の姫 狂言一場と表題して池  
金作上京乃刻彼地の狂言作者金子一高といふ者思ひつら  
隨せ只一場作らず前後の近松が浄瑠璃當流栗判官  
規と今様小ころは前後の例の近松が浄瑠璃當流栗判官  
倭て愚筆と添ふる冊子たるは金子一高に互合松不柳  
乃 継穂して 藤澤寺版元伊藤小由縁の色花が長き  
松をたよりの藤澤寺版元伊藤小由縁の色花が長き  
春れ日の目覚むささくか

文政 三年庚辰秋稿成  
四年辛巳春新彫

柳亭種彦識





餘湖山  
 亥膳が娘  
 照天

やまのこ  
 やまのこ車  
 右明曆年同  
 流行せし  
 小船から



美濃國  
 青墓  
 宿乃  
 人留女  
 常陸  
 小萩  
 實八  
 栗  
 判官  
 兼氏  
 君小とが  
 うらら



月傭の物縫女

阿今 實八 星雲 闇六 妹

松代

々乃月

松壽軒西鶴

家主 頓作



頼と花と

ふめ 里も 河も

池野屋莊司郎

實八 小栗家臣

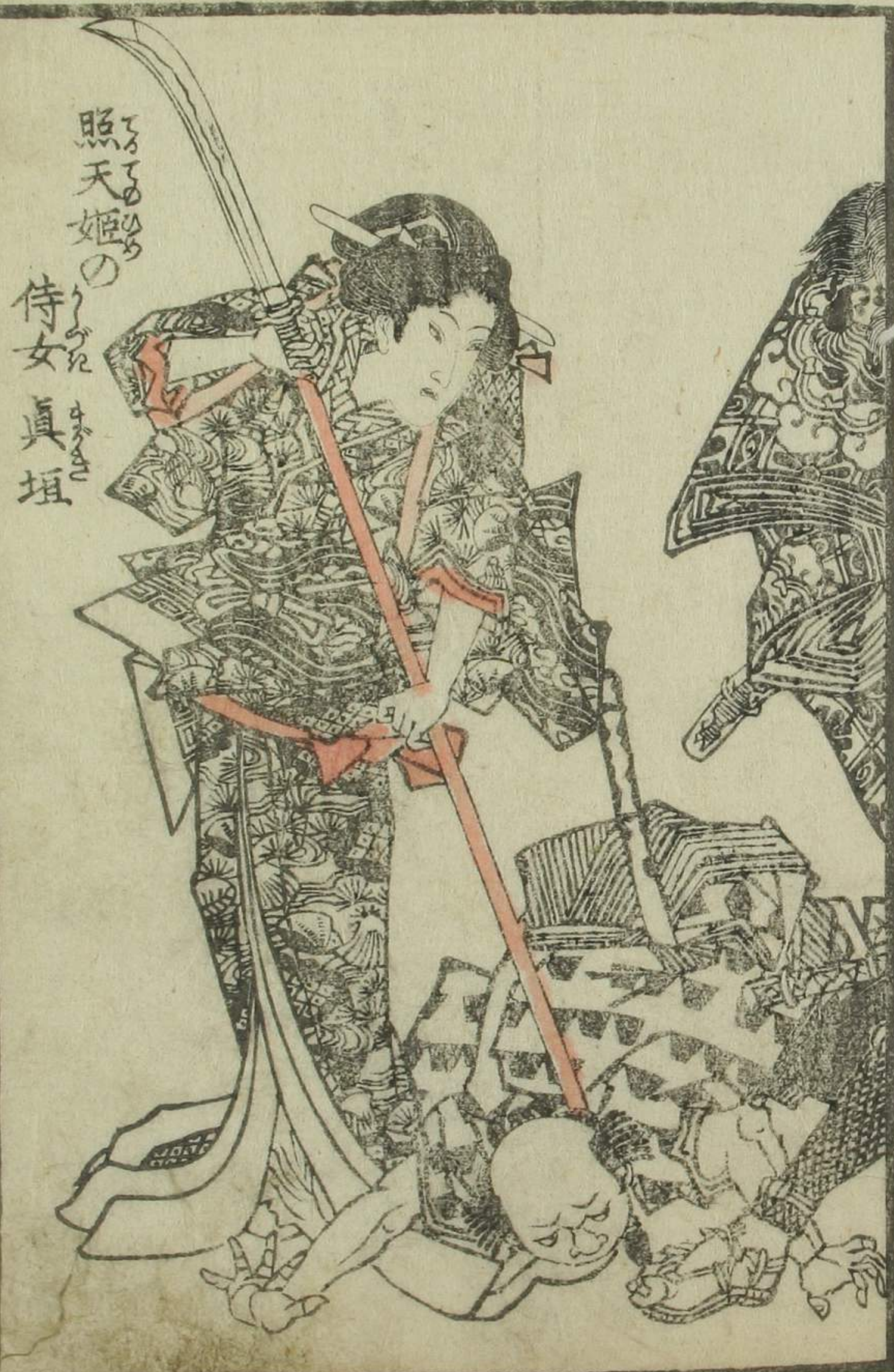
池野莊司正春



小栗の家臣  
星雲閣六



小栗の家臣  
室川  
小文次  
長秋



照天姫の  
侍女真垣



伊豆相摸の郡司  
餘湖山  
女膳  
信一

小栗重寶  
氷花之轡

小栗家臣  
後藤大八

小栗

小栗

五

口









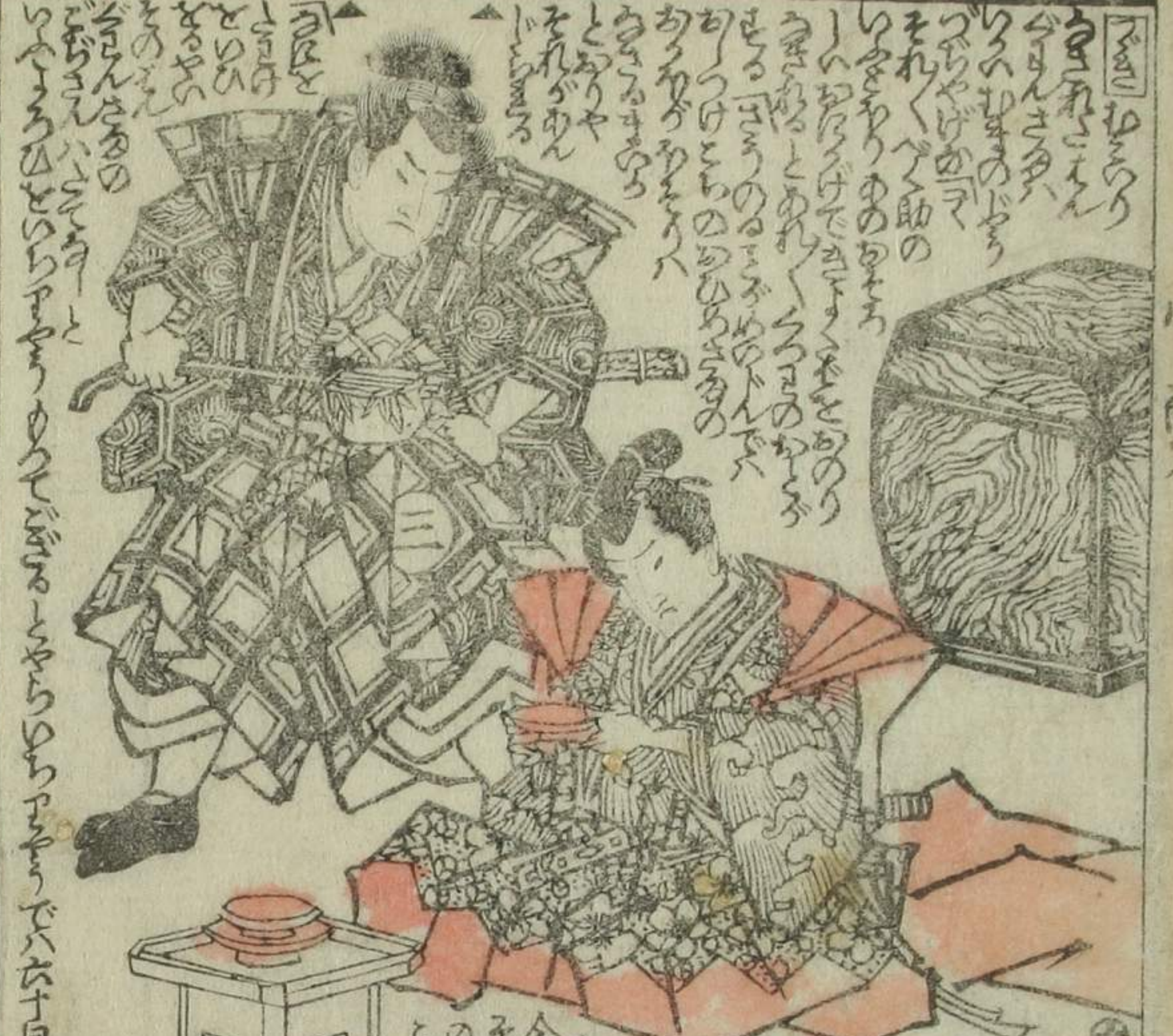






三  
 此の巻の物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今も昔も、  
 人の心は、  
 変わらぬものだ。

人の心は、  
 変わらぬものだ。  
 昔の事だといふが、  
 今も昔も、  
 人の心は、  
 変わらぬものだ。



此の巻の物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今も昔も、  
 人の心は、  
 変わらぬものだ。

人の心は、  
 変わらぬものだ。  
 昔の事だといふが、  
 今も昔も、  
 人の心は、  
 変わらぬものだ。





107

十三



108

十四



ついでに... 小西... 小西... 小西...



これより... 小西... 小西... 小西...



小西... 小西... 小西...

川... 小西... 小西... 小西...



小西... 小西... 小西...

















Vertical Japanese text on the left side of the illustration, including a small boxed character at the top.

Vertical Japanese text on the right side of the illustration, including a small boxed character at the top.



Vertical Japanese text at the top of the illustration, including a small boxed character.

Vertical Japanese text at the bottom of the illustration, including a small boxed character.









柳亭明好

新形

花紅葉

古三将

市の目

物

浅草

村田

中野



柳亭明好

新形

花紅葉

古三将

市の目

物

浅草

村田

中野











柳亭種彦作



歌川國貞画

筆者藍庭晋朱  
彫工江川留吉



人形筆五色絲藏

後編六冊

柳亭種彦作  
歌川國貞画

これち先年賣出くまゝ一日本駈右馬のむらびは後編  
あて為書はらんに入はそつのは後ちくまんよみくまんゆきと  
の外まらぶう間に合ひる絲。放一寸の巾上は板下もさ書業仕る  
た急ぎ島九月下旬うは是遅くは院に合の巾のりさ書作者はらん  
種彦画六はむおきの國貞取面白ひるさ書とむ書さうち發兌  
のせり評らん回承は院の程備を希る以上

山本平吉板

岩倉万之丞後編

作者鶴屋南北  
怪談鳴見紋 全六冊

中村仲藏信夫賣始  
戲場役者四郎太郎寫録

繪師歌川國貞



